

地域・職域で進めるアルコール対策の 取組と活動実態調査 — 第2報 —

○重松莉奈^{*1} 中川優馬^{*2} 永山紀子^{*3}
上原千枝^{*1} 戸高由佳里^{*1} 藤崎淳一郎^{*4}

(^{*1}中央保健所 ^{*2}宮崎市保健所
^{*3}県立宮崎病院 ^{*4}衛生環境研究所)

はじめに

宮崎東諸県地域・職域連携推進協議会

目的

地域と職域の連携



保健事業の共同実施連携体制の構築



保健サービス提供体制の整備

はじめに

宮崎東諸県地域・職域連携推進協議会

アルコール対策の重要性

アルコール健康障害対策推進基本計画

平成28年5月策定

- ・飲酒に伴うリスクに関する正しい知識の普及
- ・不適切な飲酒について関係機関の連携体制の整備

3カ年計画表

	H29年度 (1年目)	H30年度 (2年目)	H31年度 (3年目)
取組	アルコールに係る 調査内容検討	調査実施・集計	調査結果報告 媒体作成・配布
協議会	2回(8/3月)	2回(7/3月)	2回(7/3月)
部会	2回(9/12月) 調査内容検討	2回(9/12月) 調査集計	2回(9/12月) 媒体内容検討

対象と方法

第1回 協議会・部会

アンケート調査

- 対 象：協議会委員の所属する団体及び施設（1, 637施設）
- テーマ：アルコール対策状況調査
- 期 間：平成30年10月～平成31年1月末

第2回 協議会・部会

グループディスカッション

- メンバー：部会員 10名 事務局 3名
- テーマ：アルコール対策状況調査結果に基づいた啓発媒体について

結 果

アルコール対策について
のアンケート調査

(1) アンケート回答事業所の内訳

表1 回答事業所の内訳

	10人未満	10~29人	30~49人	50~99人	100人以上	計
医療	377	93	14	14	23	522
福祉	50	130	35	37	5	256
教育・学習支援業	7	36	10	8	4	65
宿泊業・飲食サービス業	19	14	5	6	3	54
金融業・保険業	0	9	0	0	9	13
運輸業・郵便業	0	0	1	3	7	11
建設業	0	0	3	1	2	36
製造業	0	0	2	1	13	21
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0	0	3	5
情報通信	0	0	1	0	6	9
卸売業・小売業	0	0	5	13	11	34
生活関連サービス業、娯楽業	3	1	1	3	2	8
サービス業	0	4	1	9	13	26
その他	3	1	2	0	2	7
計	469	321	80	95	103	1068

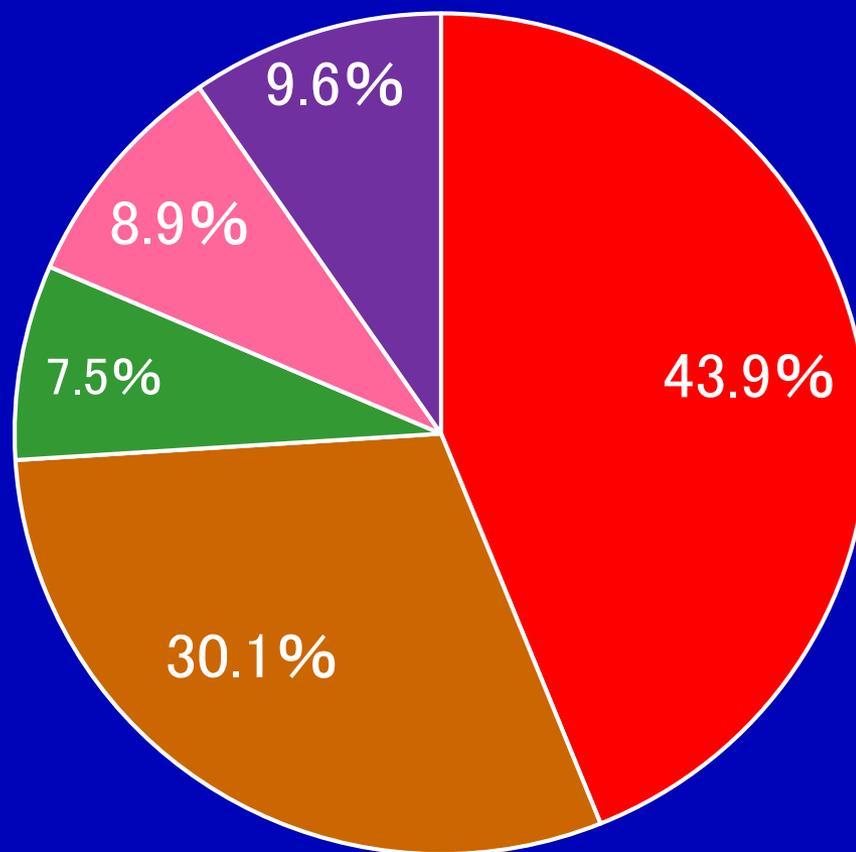
「医療」「福祉」

72.9%

(1) アンケート回答事業所の内訳

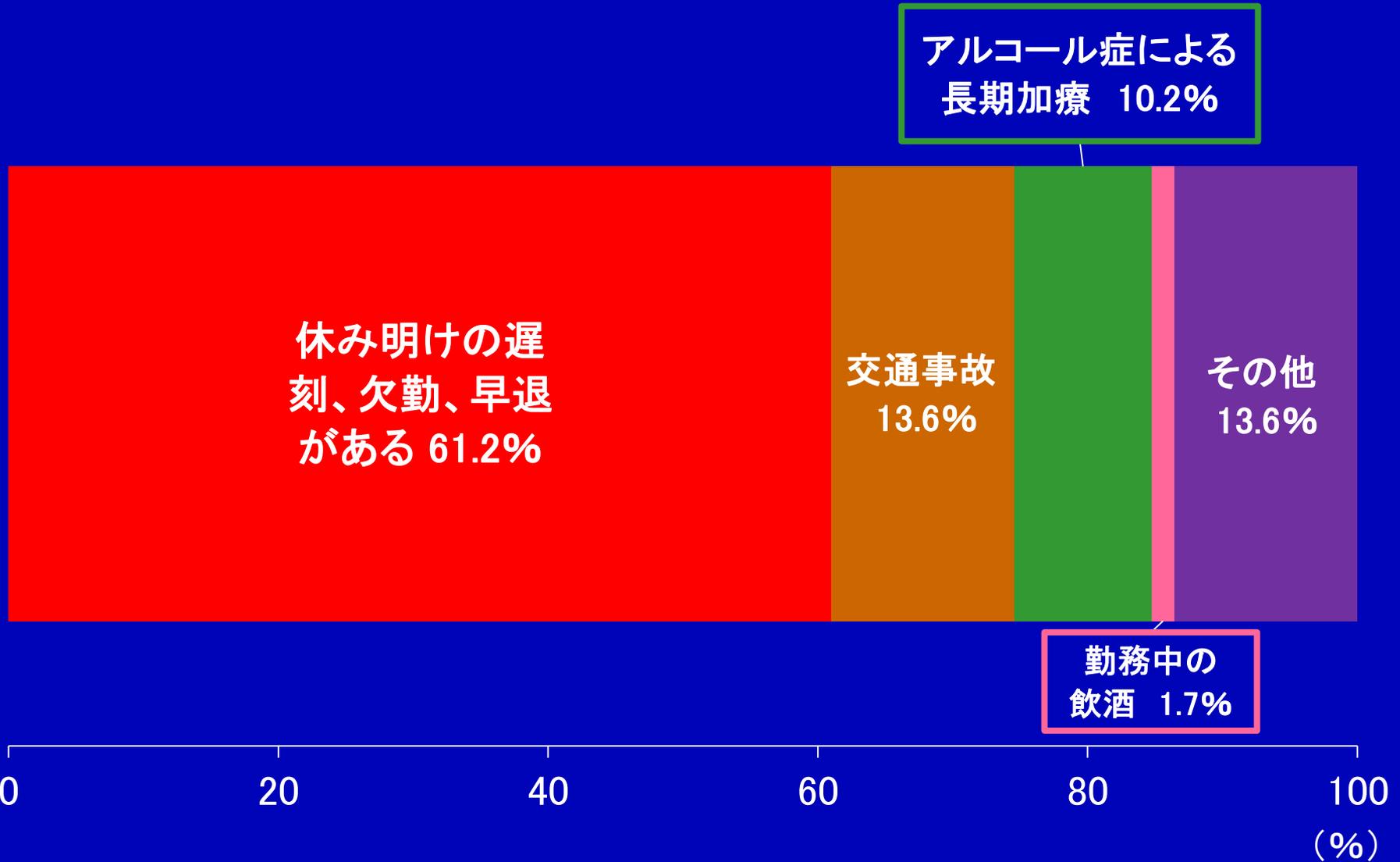
図1 従業員規模別割合

■ 10人未満 ■ 10～29人 ■ 30～49人 ■ 50～99人 ■ 100人以上



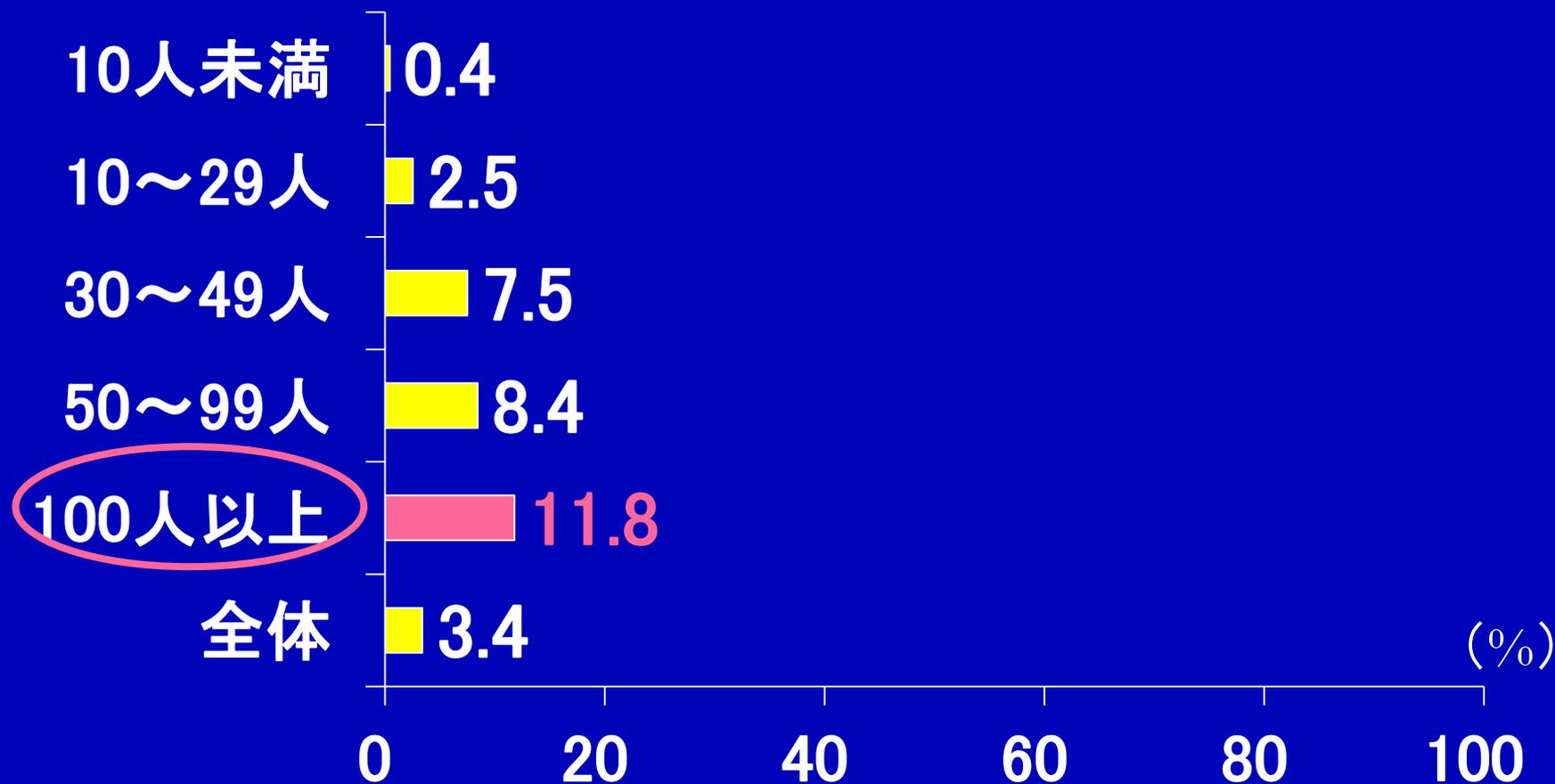
(2) アルコール飲用に関連した問題の有無

図2 アルコール飲用に関連した問題の有無



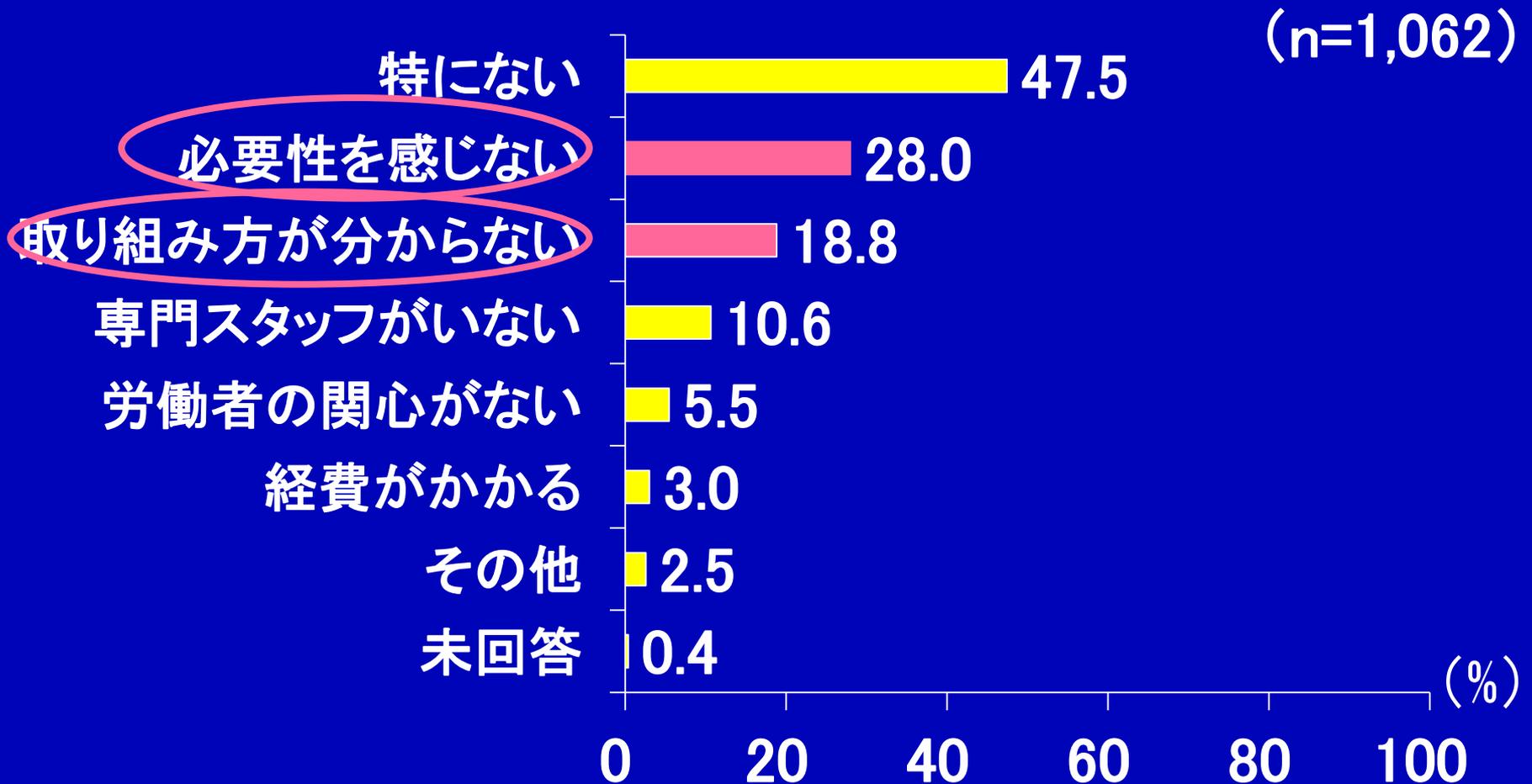
(2) アルコール飲用に関連した問題の有無

図3 休み明けの遅刻、欠席、早退の有無 規模別事業所割合
(複数回答)



(3) 対策が困難な理由

図4 アルコール対策に取り組んでいない主な理由
(複数回答)



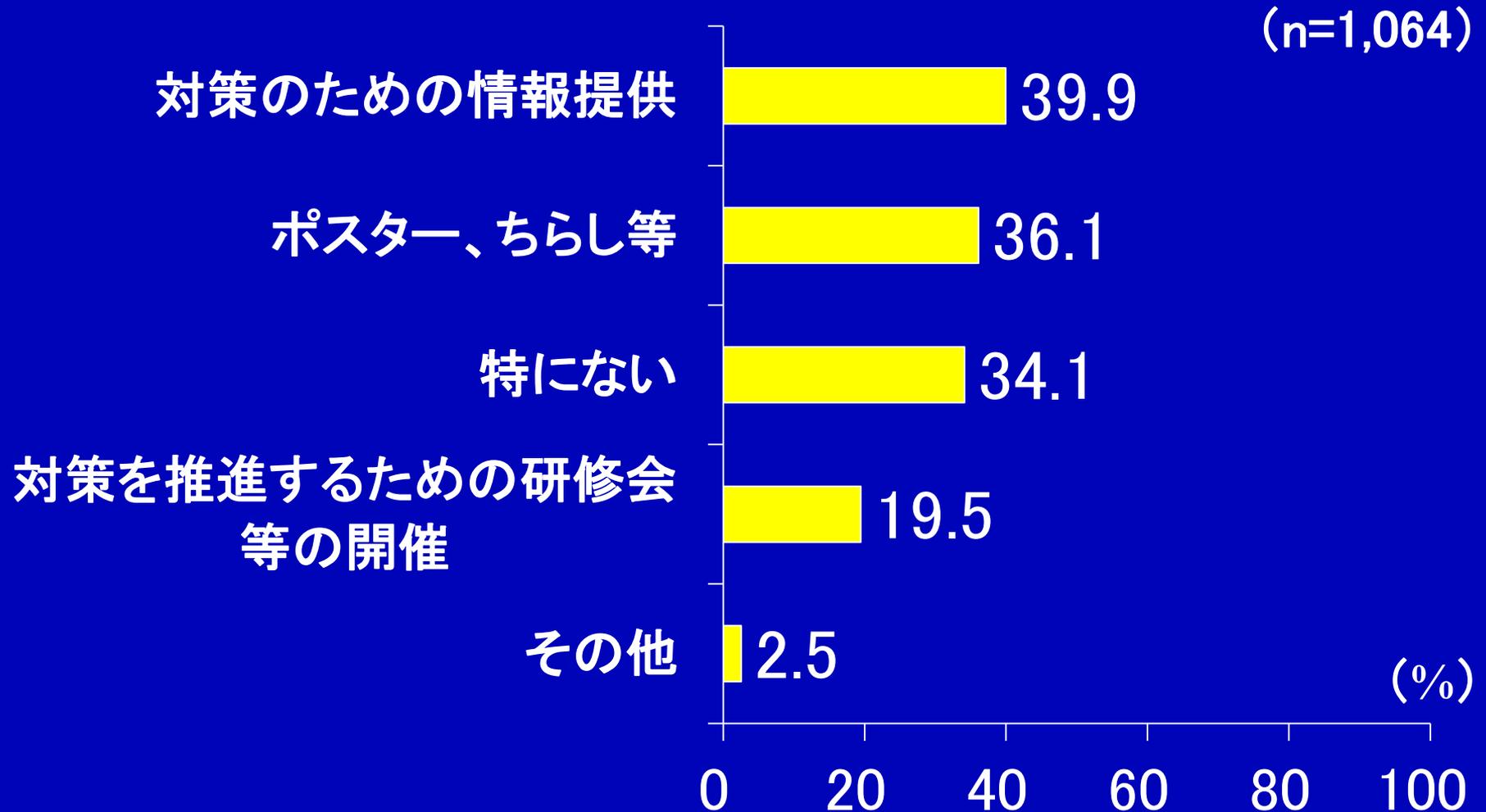
(3) 対策が困難な理由

図5 必要性を感じていない規模別事業所割合
(複数回答)



(4) 対策について望むこと

図6 対策について望むこと(複数回答)



考 察

調査結果の評価

必要性を感じない

取り組み方が
分からない

現状

「休み明けの遅刻、欠勤、早退」が一定数ある

問題があることが表出されない・優先度が低い

潜在的な問題になりやすい

産業衛生分野におけるアルコールに 関連した問題

- **A**ccident (事故)
- **A**bsenteeism (無断欠勤)
- **A**lcoholism (アルコール依存症)

3A問題

富山県内における アルコール飲用に関連した職場問題

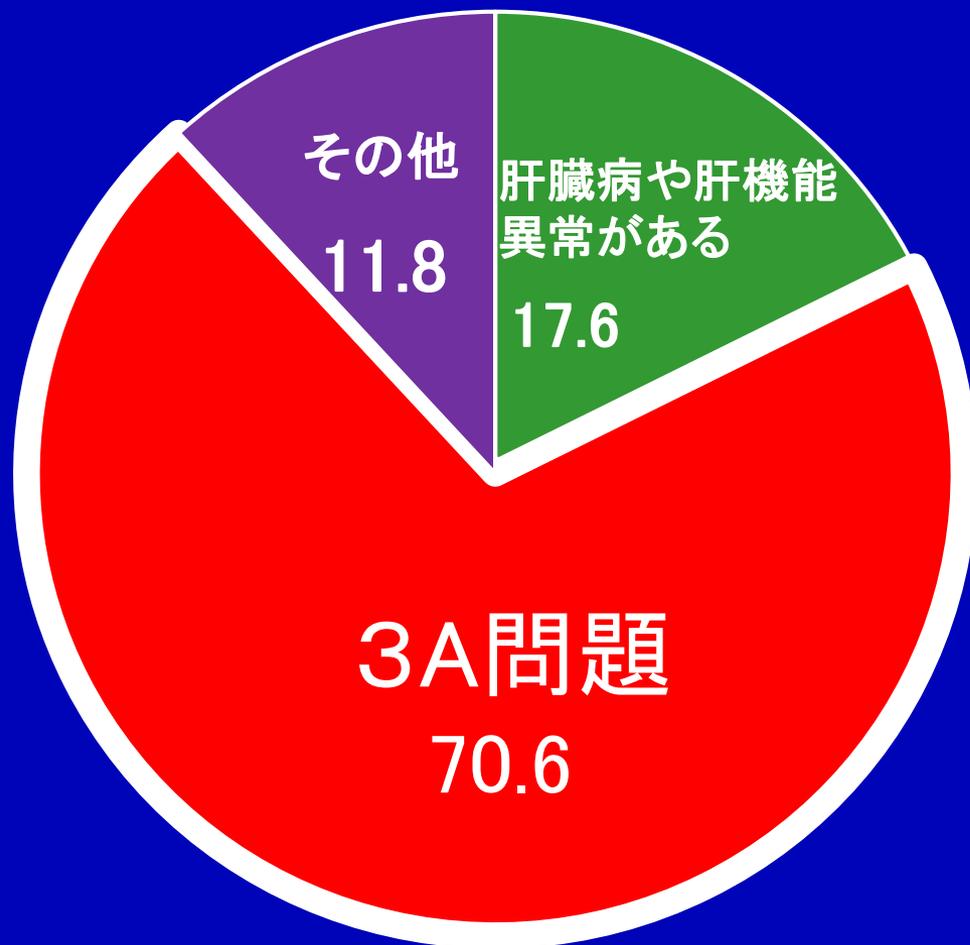


図7 平成7年度富山産業保健推進センター「職場におけるアルコール問題へのアプローチに関する研究」

宮崎東諸県地域における アルコール飲用に関連した職場問題

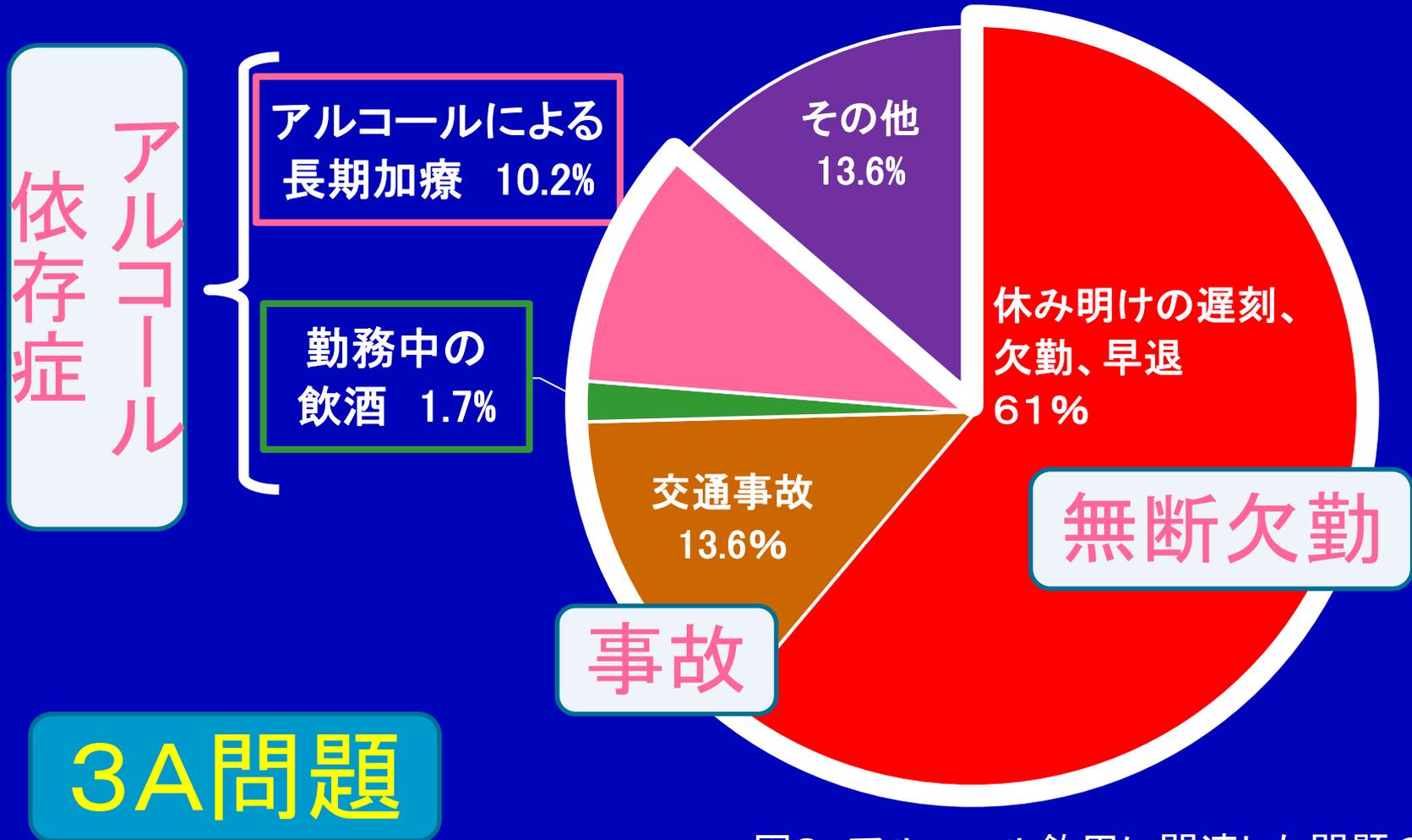
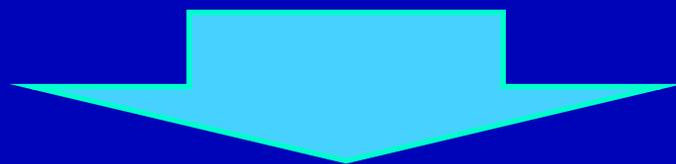


図8 アルコール飲用に関連した問題の内訳

3A問題の背景・課題

- アルコール問題は現場では「隠される」ことが多く**個人の問題**にすり替えられやすい特徴
- **欠勤**は年休処理されることが多く、年休がなくなり欠勤になって初めて**メンタル障害**の存在が明らかになることが多く、対応が遅れる

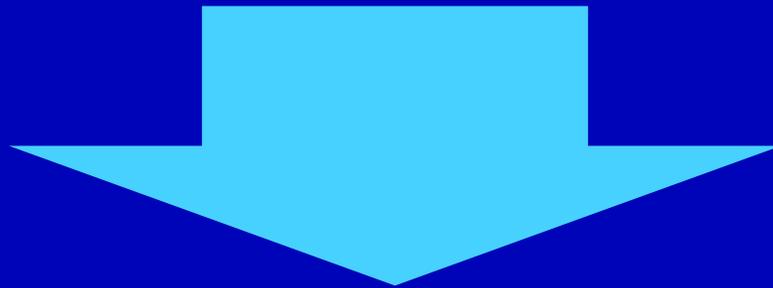


正しい知識の普及が重要である

今後の取組

課題から対策へ

正しい知識の普及が重要である



協議会でさらなる協議を重ね、効果的かつ具体的な対策を検討していきたい